

Excel 快速 お仕事術

満載!
業務に役立つ
実用テクニック



牧村 あきこ
MAKIMURA, Akiko

第 4 回

ExcelとPowerPointの連携で 商品カタログを作ろう

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
 - Excel 2000/2002
 - PowerPoint 2000/2002

Level



Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥EXCELディレクトリに収録しています。

・商品管理.XLS
今回作成したサンプルアプリケーション
¥PICTURE
サンプルで利用する商品画像



はじめに

本連載は「Excel快速お仕事術」という名の通り、Excelの機能をフル活用して、仕事に役立てていただくことを目標としています。とはいえ、なんでもExcelで処理することが最良の方法であるとは限りません。他のOffice製品と連携をとることで、目的とする結果を効率よく得られる場合も少なくないのです。

今回はExcelとPowerPointを連携した商品カタログを作ってみたいと思います。PowerPointといえは、「プレゼンテーション用のアプリケーション」というイメージを抱く方も多いでしょう。しかし、それは、裏を返すと画像などの視覚系メディアの扱いに長けているということです。この特徴を利用して、Excelのデータベースに蓄えた商品情報からデータを読み出し、PowerPointのスライドに画像データを表

示した商品カタログ作りに挑戦してみましょう。



プログラムの 連携イメージ

プログラムの全体像を説明しましょう。ここでは、ある商品の情報を「商品管理.xls」というExcelファイルで管理していると仮定します(図1)。プログラミングの都合上、一覧表は3行目から配置し、C列には商品の画像ファイル名を、D列には商品の補足説明を入力します。また、画像ファイルは、「商品管理.xls」ファイルと同じ階層にある「picture」フォルダの中に収められているものとします(図2)。

このようなデータをもとにプログラムを実行すると、PowerPointが自動的に起動して、画像イメージを貼り付けたスライドを作成してゆきます(図3)。プログラムのおおまかな仕様を次にまとめましたの

図1：Excelで管理する商品情報

番号	商品名	ファイル名	解説
1	商品A	Plant1.jpg	ポットカラー:クリーム
2	商品B		ポットカラー:素焼き
3	商品C	Plant3.jpg	ポットカラー:ホワイト (サーモンピンクもあります)
4	商品D	Plant4.jpg	ポットカラー:素焼き (商品Bより、ひとまわり大きめです)
5	商品E	Plant5.jpg	ポットカラー:アイシングブルー

図2：商品画像はExcelファイルと同じ階層に配置したpictureフォルダに格納



図3：PowerPointで作成した商品カタログ



で、概要をしっかりとつかんでおいてください。

Excelサイド

- ・A列には商品データの番号が入力されているものとし、途中に空欄がないものとする
- ・画像ファイル名は空欄でもOKとするが、その場合カタログには何も表示されない
- ・画像ファイル名が間違っている場合は、ファイル名を赤色に変更する

PowerPointサイド

- ・カタログの先頭は表紙スライドとし、Excelのファイル名と利用ユーザー名が自動入力されるものとする
- ・スライドには画像をひとつ表示し、画像の下にファイル名を、右側に補足説明を表示する

- ・横長の画像は、横幅をスライドの横半分の大きさに縮小する。また、縦長の画像は、縦幅をスライドの横半分の大きさに縮小する
- ・PowerPointファイルの保存は手動で行なう



参照設定して PowerPointを操作

コーディングに取り掛かる前に、大事な作業があります。今回は、ExcelからVBEを起動しプログラムを作成してゆきますが、大半の処理コードはPowerPoint VBAを利用します。Excel VBAと制御構造や細かな文法などは同じですが、オブジェクトモデルが異なりますので、ExcelからはPowerPoint独自のオブジェクトやメソッド、プロパティを認識することができません。

身近な例でいえば、Excelなら「worksheets.add」と入力して改行すれば、自動的に「Worksheets.Add」のようにキーワードの先頭が大文字になってキーワードの持つ意味が認識されますが、PowerPointの場合にはそうはゆきません。そこで、あらかじめ「ここではPowerPointのVBAを利用します」とExcelに通知することで、Excelの開発環境でPowerPoint VBAを利用できるようにします。この一連の操作を「参照設定による事前インデニング」と呼びます。

手順は極めて簡単です。VBEを起動し、標準モジュール